

令和元年度

地域力応援基金助成事業 活動報告書



地域力推進課

区民協働・生涯学習担当

令和元年度実施 地域力応援基金助成事業 活動報告書 もくじ

地域力応援基金助成事業概要 4

スタートアップ助成

■新規

団体名	事業名	頁
ハイミー	ハやくいっしょにみつげようー！	5
Live&Life	親子自然体験事業	6
おとな & こども・ほっとネット	子育て家族のしあわせづくりと子どもたちのゆたかな育ちの環境づくり	7
防災助っ人集団 やっこさんの会	「大田区で防災について考えるつどい」	8

■継続（平成 30 年度から実施）

団体名	事業名	頁
Chatty+	Chatty+Room・Chatty+ワークショップ	9
一般社団法人 ERINA ダンスアカデミー	こころと身体を健康をサポートする事業	10
おおたコマプロジェクト	ものづくり体験イベント	11
ママカフェ久が原	子育て支援全般、親と子で楽しめる文化事業・多文化交流事業の開催	12

ステップアップ助成

■新規

団体名	事業名	頁
大田区外国語ボランティアガイドグループ	大田区来訪外国人対応ボランティアガイドおよび日本文化体験	13
特定非営利活動法人 自立支援センターみんなの家	S S Tを活用した対象者の支援活動と支援者のS S Tスキルアップ研修	14
サードエイジサロン	退職者の生き方塾	15

非営利公益団体 久が原落語友の会	定期落語会『くがらく』開催と落語会を軸とした地域コミュニティの強化	16
NPO法人 打楽器コンサートグループ・あしあと	こころに響く絵本つくっちゃお♪	17
社会福祉法人 大洋社	若者の生きる力の醸成支援を軸にした自立支援活動「JOY」	18
オレンジ茶房「縁（えにし）」	オレンジ茶房「縁」	19

■継続（平成30年度から実施）

団体名	事業名	頁
特定非営利活動法人 CONNECT	地域まるごとケアのまちづくり～住んでみたい街 NO1 といえる大森のまちづくり～	20
Hanatomo	花でつながる未来の輪プロジェクト	21
うのき水辺の楽校協議会	多摩川の自然と遊ぼう！自然から学ぼう！	22
NPO法人茶道キャラバン喫茶去	茶道から広がる日本文化を体験しよう	23
一般社団法人 地域パートナーシップ支援センター	2020 オリンピック・パラリンピックへGo！おたの魅力PRプロジェクト	24
おおた生涯学習世話人会	①出前「地域おしゃべり講座」、②「退職元気高齢者の地域参加促進事業」	25
一般社団法人おおた助っ人	「子どもの未来を創る『キャリア教育』」	26
PSI 池上自主防犯パトロール隊	安全安心なまちづくりと平和で安全な「ふるさと」づくり活動	27

チャレンジプラス助成

■新規

区が提示したテーマ「**おおた健康プロジェクトを推進する事業**」
区民活動を通じて、健診（検診）の受診につながる事業を募集した。

団体名	事業名	頁
一般社団法人日本社会連帯機構	区民と区民活動をつなげる「OTA 健康スタンプラリー」波及事業	28
おおた高齢者見守りネットワーク	健康行動を生活に取り入れた生活習慣獲得に繋がる地域づくり	29
NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり	花とみどりで心と身体の健康づくり	30

地域力応援基金へのご寄付のお願い 31

■ 地域力応援基金助成事業の概要

地域力応援基金助成事業は、平成 21 年度の制度創設以来、大田区 10 年基本計画「おおた未来プラン 10 年」の計画事業に位置付け、区民活動を支援する施策として実施してきました。本計画では、10 年を契機に検証を行う位置づけとなっていること、また地域活動の現状に即した制度とする必要性に鑑み、令和元年度の実施分から以下の通りの制度となりました。

■ 【現行制度（令和元年度の実施分から）】

各助成事業の概要

	スタートアップ助成	ステップアップ助成	チャレンジ助成・チャレンジプラス助成
主旨	団体の基盤となる事業の応援	基盤となる事業を拡大・拡充させる事業やスタートアップ助成事業の規模拡大の応援	新たな地域課題や新規事業にチャレンジし、地域の連携・協働の深まりが期待できる事業を応援 このうち、区が示すテーマに即した事業であれば、申請額の上限を50万円増額とする。（チャレンジプラス助成）
要件	設立から概ね5年以内、かつこれまで助成事業を実施していない	設立から概ね3年以上	区内で活動実績があり、設立から概ね6年以上、かつ既存助成事業実施終了または新規助成制度における事業実施終了から2年以上経過
総額	新規200万円 （継続150万円）	新規280万円 （継続210万円）	新規1,000万円 （継続750万）
助成額	1事業につき20万円まで （継続は15万円まで）	1事業につき40万円まで （継続は30万円まで）	1事業につき200万円まで （継続は150万円まで） ただし、チャレンジプラス助成として申請した場合は、250万円まで （継続は187万円まで）

■ 【旧制度（平成30年度の実施分まで）】

各助成事業の概要

	スタートアップ助成	ステップアップ助成	ジャンプアップ助成
主旨	団体の基盤となる事業の応援	団体を発展させる事業への応援	区設定の課題に取り組む事業への支援
要件	設立から概ね5年以内、かつこれまで助成事業を実施していない	団体設立から概ね3年以上7年以内	団体設立要件なし
総額	新規300万円 （継続180万円）	新規1,500万円 （継続600万円）	新規400万円 （継続400万）
助成額	1事業につき40万円まで （継続は24万円まで）	1事業につき300万円まで （継続は200万円まで）	1事業につき400万円まで （継続も同様）



高齢者・幼児の行方不明者を 0ゼロ に!!

事業名 **ハヤク イっしょに ミつけよー! ハイミー** 助成額 15万9千円

◆地域での課題発掘

池上地域を拠点に事業認知促進!

- ・毎週のカフェ活動
…集い、おしゃべり、情報交換を行う
- ・「ふれあいサロン」協働講演会開催
…講師と協働し地域の皆さんと交流
- ・普及活動
…地域のイベントに参加し「ハイミー」認知度UP!!



第一回講演会 講師 永山健太郎先生（歯科医師）
テーマ 口腔ケアで認知症悪化予防

◆基金事業概要と達成した成果

テラッコ池上での講演会、地域関連イベント参加等で検索体験会の事前広報をし、検索体験グループへの参加登録者が31名となりました。

検索体験実施当日の推定検索実施者 10名～15名が参加しました。検索対象者の位置情報・写真をグループに送信後最短発見時間はわずか8分でした！
スマホと地域の善意で事故等にあう前に保護できる事が実証されました。



◆これからの取り組み

令和2年度は今回の検索体験を進化させながら、池上地区及び周辺の地区の有志の方々と検索体験会を継続して開催して参ります。ハイミーの活動が大田区のスマホをお持ちの方々の当たり前の『ちょっとしたボランティア活動』になる様に区民の方々とのONE TEAMで進めて参ります。



検索体験会 右一番発見者8分・左5番発見者15分

※今後も本格始動に向けて体験会を実施いたします！

[参加してみたい方はぜひこちら](#)



団体名 **ハイミー**
 会員数 11人 設立 平成30年4月

団体の活動目的 活動実績

認知症を身近に感じてもらい、「困ったときには誰かに相談できる」ことを知っている人が一人でも多く増えることを目的に活動しています。イベントに出席していただける方々が徐々に増えてきている事により付近の商店の人たちへの認知度も上がり、チラシの配布のご協力を頂いております。その結果、検索体験会を実施にこぎつけることができました。

自転車 10 分の親子自然体験

事業名 親子自然体験事業

助成額

17万円

◆地域での課題

遠い山や海に費用と時間をかけて参加する自然体験はどうしてもイベント的になり、特別なことになってしまう、自然豊かな大田区にある自然を活用することで親にも子どもにも生きている自然を感じ、普段の暮らしの中にある自然を通して、命の大切さを学んでほしい

◆基金事業概要と達成した成果

- ・春・夏・秋・冬、雪谷周辺の公園とせせらぎ公園で自然体験教室を実施。
- ・目だけでなく、におう、触る、耳を澄ませる、味わうといった五感で自然を感じるプログラムを実施
- ・参加した家族が他のお友達を誘い夕方再び遊ぶ、こんな公園があることを知らなかったと新しい大田区の自然を発見

◆これからの取り組み

- ・自転車 10 分以内の別の公園を探し、違うプログラムを実施
- ・子どもだけでなく、親や保育関係者にも、自然体験をしてもらい、自分自身がまず楽しめるようにする
- ・公園での遊び方をより豊かにするために、他の団体と協同し、この活動を広めたい



団体名 Live And Life

会員数 2人

設立

平成 31 年 4 月

団体の活動目的
活動実績

大田区にある身近な自然を生かした活動を通して、いのちの大切さと生きる力を子供達に身に付けてほしいとの思いからこの団体を立ち上げました。現在は助成金を使わせていただき、春・夏・秋・冬 4 回の自然体験を雪が谷大塚周辺で行っています。

子どもと親と一緒にわくわくほっとできる場所

事業名

子育て家族のしあわせづくりと子どもたちのゆたかな育ちの環境づくり

助成額

18万7千円

◆地域での課題

- ①希薄になってきている家族のきずなを強める活動
- ②地域のなかで孤立しがちな子育て世代の交流の場づくり
- ③父親、母親の活躍の場づくり
- ④多世代間の交流の場づくり
- ⑤多文化交流の場づくり
- ⑥遊びを通しての子どものダイナミックな育ち



◆基金事業概要と達成した成果

- ① 子どもの遊びを通しての家族間の交流推進の事業→青空デイキャンプ・子どもグレイテストサイエンス（イベント参加者 600名）
- ② 若い世代の居場所づくりや出会いの場づくりの事業→おたおやこまつり（参加者 1600名）
- ③ 父親・母親が自身を輝かせることができる場づくり→おたおやこまつり
- ④ イベントを通しての子育て団体の連携の促進事業→イベントごとに地域団体との連携と協働の推進の実現（出展 30 団体）
- ⑤ こども食堂事業など。→毎月子ども食堂の開催、特に小学校での子ども食堂の開催は大田区で初めての取り組みです。
- ⑥ 年間を通して参加者の合計数「3190人」

青空デイキャンプ・子どもグレイテストサイエンス

青空デイキャンプ 350 名・子どもグレイテストサイエンス 150 名の参加者。大人も驚くような世界に子ども達が大興奮、感動の歓声を上げました。

◆これからの取り組み

年間を通じて、親子の遊びと繋がりをつくり、参加者同士での交流が出来るようになります。運営と一緒に携わる人数を増やし、大田区全域で幅広く活動を行え、「大田区で一番面白いね」と言われ様々な年代（若者・子育て世代・地域の高齢者）の方が関わって会員になってくれるような団体をめざします。



子ども食堂 in かまた&まごめ

子ども食堂を毎月1回、蒲田教会・梅田小学校で開催。小学校での子ども食堂の開催は大田区では初めての取り組みです。子どもと親同士のつながり、交流・居場所作りとなっています。

団体名

おとな&こども・ほっとネット

会員数

22人

設立

平成30年3月

団体の活動目的
活動実績

子育て家族のしあわせと家族みんなが輝ける大田区をつくることを目的に結成

防災助っ人集団 やっこさんの会の防災

事業名 大田区で防災について考えるつどい

助成額 16万7千円

◆地域での課題

大田区では、首都直下型地震が発生すると3万件を超える火災と、1,000人を超える死者が出ると想定しています。

区民が防災を意識するきっかけとなった東日本大震災も9年という歳月の経過と共に、その「記憶」は徐々に薄れてきているのが現状です。



生活実習所での防災研修
災害時、どんな避難所になるかを想像しました

◆基金事業概要と達成した成果

やっこさんの会では、ひとりひとりが気づく防災啓発活動をしています。大田区民に災害時のスキルを広め、大田区を災害に強い区にしていこう、と考えています。

また、災害への要配慮者など高齢者や障害者への防災啓発活動を推進しています。

今年度は自治会・町会、小学校中学校を含めて8カ所で大田区と連携し、防災セミナーを実施しました。

災害語り部
TTT講演
おおた防災フェスにて
(於 池上会館)



避難所運営スタッフが語るあのとき
避難所スタッフ経験者の話を聞きました。



こらぼ大森
ハロウィンまつり
防災ゲームをしました



◆これからの取り組み

大田区内で積極的に防災活動をしている“CONNECT” & “縁プロジェクト”と連携して、大田区内での防災啓発活動を推進していきます。

区内のあらゆる細胞をつなげて、防災活動をしていきます。

特に要配慮者への取り組みはとても大切だと考えています。



熊本地震の講演会と
防災想定ゲーム
KIZUKI
熊本から熊本地震の
被災者に来てもらいました



大田区版水害HUG
やっこさんの会が作った、大田区版水害HUG(中小河川氾濫編)を羽田・萩中地区の皆さんとやりました
(萩中集会所にて)

団体名 防災助っ人集団 やっこさんの会

会員数 10人 設立 平成30年9月

団体の活動目的 活動実績

自分の命を守り、家族の命を守り、友だちの命を守り、近隣共同体のみんなの命を守る活動。そして防災は知識だけでは足りません。ひとりひとりが気づかなければなりません。やっこさんの会では命を守るために気づく防災活動をしていきます。

防災に関する講話 各種防災ゲーム ワークショップ まち歩き…なんでもやります。

Chatty+ (ちゃっていーぷらす)

事業名 Chatty+Room・Chatty+ワークショップ

助成額 24万円

◆地域での課題

地域で孤独な子育てをしているママ・子育てに悩んでいるママが、サークルなどの「強制」でない、「都度参加申込制」で、いつ参加しても安心・安全な空気で、悩みやモヤモヤをアウトプットする「場」が大田区で見つけるのが難しい。保育園ママ、幼稚園ママなど境遇の違うママと出会うチャンスがなかなかない。

◆基金事業概要と達成した成果

座談会 (7回) 「ママでも出来ること私だから出来ること」「ほめる育児は誰のため?」「産後と子育ての不安」「うちの子…大丈夫??」「諦めない、夫とのパートナーシップ」「ワンオペ育児から抜け出すヒント」「いよいよ小学生!」
ワークショップ (3回) 「描いてみよう私の幸せ」「私の理想のライフバランス」「親の役割から考える子育ての軸」「描いてみよう私の幸せ」

わいわいフェスタ出展・NPOフォーラム出展

子育て中の女性にとって、じぶん自身と向き合うという、貴重な経験をととして、じぶん自身を大切にしながら笑顔で子育てできるママを増やしています。参加のべ人数 91名。

◆これからの取り組み

2年間の活動から得られた団体運営における課題を見直します。作業を計画的かつ効率よく行い、役割分担を細分化・明確化にすることで主催者の労力や負担を軽減し、ボランティア活動として長く続けるためのシステム作りに努めます。

3年目も座談会、その他のイベントを通して、モヤモヤを抱えながら子育てしているママに寄り添う活動を続けます。



2019年5月
モヤモヤママのためのChatty+ワークショップ Vol.3
私の理想のライフバランス～こうあるべきから自分を解き放つ～



座談会、ワーク、わいわいフェスタ出展など活動の様子

団体名 Chatty+ (ちゃっていーぷらす)

会員数 6人(運営) 設立 平成30年1月

団体の活動目的
活動実績

「ママの笑顔が子どもの笑顔に」幸せな子どもを増やすため、笑顔のママを増やすべく、座談会やワークショップを開催。育児・キャリア・家族関係・人生など、さまざまなテーマについてママ同士の安心・安全な場での対話、自分と向き合うワークを通して、モヤモヤの解決やそのヒントとなる「気づき」を参加者に提供しています。

チャレンジ！チェンジ！変わる自分

事業名 心と身体の健康をサポートする事業

助成額 16万9千円

◆地域での課題

- ・ 健康づくりに関する正しい知識を得られる場が少ない
- ・ 他者との交流の機会が少ない

◆基金事業概要と達成した成果

協力団体との協働の元、楽しみながら健康意識を高めたり、他者との交流を目的とした事業を実施した。

●おた健康講座

心と身体の健康をテーマとした講演とプリベンションダンスの体験を行った。今年度より専門家への質問時間を増やすことで、日頃抱いている健康に関する疑問を解決でき、健康づくりへの意識が高まる機会となった。

●遊ぼう祭 2019

ゲーム、ダンス、体操プログラム等を通して、遊びながら健康づくりを行った。「子どもの笑顔にはげまされた」「初めて会った人同士も一緒にダンスをして楽しく過ごせた」という感想が聞かれ、10～80代の様々な世代の方との交流が生まれる機会となった。

◆これからの取り組み

◇2月16日

第5回『知って得する！おた健康講座』最新情報は、オーちゃんネットに掲載しています。是非チェックして下さい♪



☆第3回・4回 おた健康講座☆

専門家への質問コーナーでは、幅広い疑問が寄せられ、参加者同士で共有することができました。



☆遊ぼう祭 2019☆

子どもも大人も手を取り合い、ゲームやダンスで思いきり身体を動かして遊びました。

団体名 一般社団法人 ERINA ダンスアカデミー

会員数 5人 設立 平成29年1月

団体の活動目的
活動実績

プリベンションダンスの普及を通じ、一人ひとりの健康意識の向上及び、介護予防、他者との交流を目指した活動を行っています。

町工場の技術を地域と！

事業名 ものづくり体験イベント

助成額 24万円

◆地域での課題

ものづくりの町おおたとされているが、町工場に直接触れられる機会が少なかった。そこで、地域で町工場体験ワークショップを開催することで、地域に様々な学びの機会を提供するとともに、未来の職人の育成や町工場の地域との共生に資する機会を創設する。

◆基金事業概要と達成した成果

・**子どもコマワークショップ**: 大田のお土産 100選にも選ばれている町工場製のコマを使って金属の比重の違いやねじの仕組みを学びながら対戦や長回しに挑戦。多数回開催で多くの子どもに体験してもらうことができた。

・**町交場**: 商店街やデザイナーなど様々な属性の人達と一緒にイベントを立ち上げ、ねじ切りや射出成型、プレスや組み立てなど様々なワークショップに加えて町工場製の機械の操作を体験。楽しいに加えより技術的なことを体験してもらった。

・**町工場がやってくる**: 数社の町工場が出展する展示会。ノギス・マイクロ使い方講座も開催し、現場を体験してもらい直接交流の場をもつことができた。

◆これからの取り組み

今までの事業を継続していくとともに、新しくできた商店街や学校、様々な企業や地域団体との連携を深めていくことによって「ここではぐぐむ」プロジェクトを始動。人や事業の育成、地域活性に多チャンネルで取り組む。

①



②



①町交場（まちこうば）と②町工場がやってくる当日の様子



町工場体験各種ワークショップメニュー

団体名 おおたコマプロジェクト

会員数 9人 設立 平成29年2月

団体の活動目的 活動実績

町工場の経営者と地域活動しているメンバーと一緒に、「ものづくり・町工場」をキーワードにワークショップのイベント等や連携を通して地域貢献をしています。団体活動の目的は以下の4点です。

- ・ものづくりの楽しさを子供たちに伝えます。
- ・ものづくりで地域振興に貢献します。
- ・ものづくりで問題解決のお手伝いをします。
- ・ものづくりを通して大田区の魅力を発信します。

ママカフェが原はママをサポートします！

事業名 子育て支援全般、親と子で楽しめる文化事業、多文化交流事業の開催 助成額 24万円

◆地域での課題

【孤独にならない子育て環境をつくる】

知り合いがいない、言葉が通じない、孤独な子育て。ちょっとした悩みを話せる場所、助けを求められる友達、ご近所さんと出会える場所を提供することにより、安心して支え合える地域づくりを目指しています。



◆基金事業概要と達成した成果

- 多くの乳幼児連れのママたちの出会いの場を提供でき、ご近所での仲間作りに協力できた。
- H30年度に引き続き、活動を周知出来、参加者も広がった。
- チラシを大田区の各施設に置いてもらえることにより、活動を広く知ってもらうことができた。
- 大田区で地域活動する団体と協働して、乳幼児連れの講座を開催することが出来た。
- 映画を通して子育ての喜びや悩みの共有（上映会 2020年2月6日予定）



主にポケットパークこあら村にて開催しています。



◆これからの取り組み

【1か月健診後のママたちからサポートする】大田区助産師会、NPO 法人こあら村と連携し、1か月健診後の新生児とママのお出かけ場所、相談場所を定期的に開く乳幼児連れの親御さんが受けられる講座を開く。

- 手前味噌作り
- 世界のお茶会(ブラジル、韓国など)
- 安全な食育講座
- 被災時クッキング
- クリスマススペシャル など



団体名 ママカフェが原

会員数 4人 設立 平成 27年 6月

団体の活動目的 子育て世代の居場所づくり、情報提供の場。また世代を超えた地域の交流の場として、楽しく学び、かつ子育ての悩みを分かち合える場所、孤独な子育てを解消し必要な情報、困ったときの預け先や助け合えるご近所との繋がりづくりを応援する。

大田区来訪外国人ガイド

事業名

大田区来訪外国人対応
ボランティアガイドおよび日本文化体験

助成額

33万8千円

◆地域での課題

羽田空港を経由して年間8百20万人以上の外国から来る方々と、日本に在住している外国の方々は、大田区を通過点としている。

これらの方々に大田区の魅力を発信し、大田区を目的として訪れる人を増やすことを目的に活動を行なった。

台風19号による本門寺のお会式中止、新型コロナウイルスにより2月以降の活動を中止したが、再会にむけて活動体制をどのように維持するかという検討が必要となった。



日本文化体験

池上梅園(書道、茶道)羽田空港(ガイド)、バーボンストリートなどで実施。

◆基金事業概要と達成した成果

- (1) 池上本門寺、池上梅園、穴守稲荷、羽田空港、バーボンストリート探訪などでのガイドと日本文化体験を実施した。
- (2) 日本文化体験は書道、茶道、着付け、甲冑、折紙、御朱印帳作り、盆踊りなどを行なった。
- (3) ガイド、日本文化体験共に大田区の魅力発見と日本文化の深い理解が得られたとのアンケートが多く寄せられた

日程	内容	実施場所
4月	春まつり	本門寺・池上梅園
5月	松濤園	本門寺
6月	紫陽花・日本文化体験	養源寺・池上梅園
7月	本門寺ガイド・日本文化体験 立正大学留学生・東工大 セーラムガイド	本門寺・池上梅園 本門寺 本門寺
8月	羽田例大祭	穴守稲荷
11月	本門寺ガイド・日本文化体験	本門寺・池上梅園
12月	テンプル大学留学生	本門寺・池上梅園
1月	梯子乗り 本門寺ガイド・日本文化体験	本門寺 本門寺・池上梅園
通年9回	空港ガイド・日本文化体験	羽田国際線ターミナル

団体名

大田区外国語ボランティアガイドグループ

会員数

40人

設立

平成27年8月

団体の活動目的
活動実績

羽田空港などから来訪した外国人観光客および国内各所に暮らしている在住外国人に観光地化されていない大田区内の町および各施設をガイドし、大田区及び日本の本当の良さを知ってもらうことを目的としている。

参加者：377名、国：米国、中国、英国、豪州、ポーランド、デンマーク、ベトナム、チェコ等26カ国

地域の連携で安全安心の街に !!

事業名

SSTを活用した対象者の支援活動と支援者のSSTスキルアップ研修

助成額

22万3千円

◆地域での課題

- ・城南地区では初めての自立準備ホームの自立支援センターみんなの家は、地域の協力者の発掘と協力により、入所者の一日も早い自立の実現。
- ・近年の再犯状況への対応は、より緊密な支援者の連携と専門知識に裏付けられた処遇技術によって実現する。

◆基金事業概要と達成した成果

【事業の対象者、目的、概要】

- ・クライアントの支援者として協力頂ける学生、社会人スタッフの確保。
- ・クライアントに対して、生活規範、規則正しい習慣、就労意欲、就労活動支援は濃密な接触により早期の立直りに効果がある。
- ・インターンシップを開催し理解とSST(生活技能訓練)研修により支援活動のスキルアップを図る。
- ・クライアントに対して効果的支援活動。

【達成した成果】

- ・地域の理解によりスタッフと社会資源の開拓につながった。
- ・本会の目的・理念を共有できる地域の機関団体との連携が増進した。
- ・クライアント支援活動がより福祉、司法、就労機関の連携が図られ、効果的に行われている。

◆これからの取りみ

【地域の理解と協力】

- ・支援に必要なクライアントは潜在している。地域のより一層の理解と協力により要望を折り起こし、一日も早い自立の実現。

【再犯防止の取り組み】

- ・増加する処遇困難なクライアントへ早期の対応とその準備。
- ・広域連携により本会の理念の実現と安全・安心の地域の実現に貢献。

インターンシップの開催 2019. 8. 9
参加者 50名



SST研修会 2019.8.22 9.12 10.15 11.12
延べ参加者 79名(講師を除く)



「親業訓練」研修会開催 2020.2.14 2.18
延べ参加者 45名(講師を除く)



団体名

特定非営利活動法人自立支援センターみんなの家

会員数

25人

設立

平成24年12月

団体の活動目的
活動実績

心身の障害者、高齢者、就職困難者、生活困難者、刑務所等出所者に対して、社会的と生活的安定を多角方面から支援し、社会復帰の機会、暮らしの充実化を図り共存共栄する社会の実現に寄与する活動。

元気で自立して人の役にもたつカッコいい人生

事業名 退職者の生き方塾(退職者の生きがい塾)

助成額 19万4千円

◆地域での課題

団塊の世代が地域に戻って2年経過したが、地域活動に参加している人は少なく、「団塊世代」どこに行った！の声を聞く。今、地域は少子高齢化や女性の社会進出によって、山積する地域課題を解決する人的資源が枯渇しています。元気退職者に地域参加を進め、安心して住み続けられるまちづくり活動を推進します。

◆基金事業概要と達成した成果

元気退職者に現在の地域の現状と課題、これから10万時間余の長い時間の有益な使い方、自立するための食事作り、長年体験してきたタテ社会からヨコ社会への切り替え、新たな働き方等をみんなで話し合い、納得できる2周目(2回目の還暦に向けて)の生き方を各自で考え・計画し実行する5回の準備講座。成果は最後に「これからの私の生き方」を発表します。

◆これからの取り組み

- ①早い段階での地域参加に取り組み、地域の皆様と共に生きがいをもってさわやかに生活する。
- ②講座の中でこれからの生き方のロードマップを描き、それに基づき、2周目の人生を適時・適正に修正しながら有意義に悔いを残すことのない楽しい納得できる人生を目指します。

講座第1回目開講挨拶と



自己紹介演習

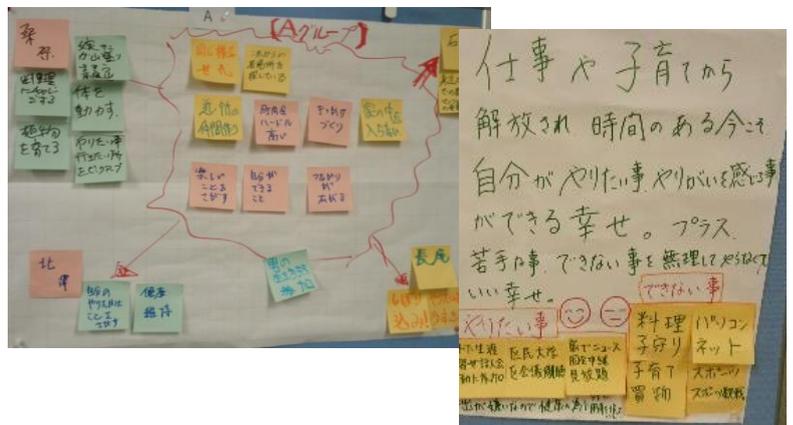
調理実習



澤岡講師の講演



グループワーク “はじめて！困ったな！”



団体名 サードエイジサロン

会員数 27人 設立 平成22年4月

団体の活動目的
活動実績

本会は、大田区に在住するサードエイジ(元気高齢者)を中心に、サードエイジの充実と健康をテーマに、仲間づくり・居場所づくりで相互の親睦を図り、サードエイジの緩やかな生き方を探求するイベント・講座等を自ら企画・運営し会員の様々な個性や嗜好を活かした活動を通じて地域社会へ貢献していきます。

『くがらく』で落語を聞いてみんな笑顔に、『苦が楽』に！

事業名 地域落語会『くがらく』の開催

助成額 20万9千円

◆地域での課題

歴史と文化、緑溢れる久が原。人と人との触れ合いが色濃く残るこの地域でも、独居高齢者世帯での孤立化問題が進んでいます。新旧居住者間、世代の壁を越えた繋がり場の場を設ける事で自宅から一歩外に出かけていくきっかけづくりになれば、今よりもっと楽しい久が原になるのではないかと。そんな思いから久が原落語友の会『くがらく』は生まれました。



◆基金事業概要と達成した成果

「笑い」で地域の方を呼び込み交流できる場として、地域落語会を開催しています。過去2年間の助成事業としての実績をもとに、本年は他の地域活動団体との関わりをより強化する事に力を注いでいます。久が原ふれあいサロン「虹の部屋」さん、認知症啓発活動団体「ハイミー」さんとの協働イベントの開催等に繋がるなど、活動の幅も広がっています。

第18回、第19回 開催時の様子

お客様からのご要望を取り入れた、“くがらくリターンズ”企画が大好評をいただきました。

◆これからの取り組み

昨年の事業で作成した”大田区落語会マップ”への反響が、他地域団体との繋がりを広げる後押しになっています。区内での落語会は予想以上に数が多く、各地域で受け入れられている事を強く実感しました。他の事業団体との協働で、各団体同士、各地域同士の繋ぎ役を担える団体を目指します。また、助成事業終了後の安定的な運営収益策の検討を進めることも喫緊の課題と考えています。



助成事業支援を受け『大田区落語会地図』を作成

地域活動を繋ぐアイテムとして、区内各地域に笑顔を届ける落語会を紹介しています。(現在は配布終了)

団体名 久が原落語友の会『くがらく』

会員数 15人 設立 平成28年1月

団体の活動目的・活動実績

『くがらく』は「落語を聞けば苦が楽になる」をモットーに、都心の寄席や演芸場に出向くことのできない方などに向けた地域落語会を年に数回開催しています。地域落語会という「娯楽の輪・地域の和」に加わりたいと思う人が、「思わず集まってくる場・行きたくなる場」にすることで、地域での孤立化・没コミュニケーション化解消を目指すことを活動目的としています。

こどもたちに音楽を！

事業名 **こころに響く絵本つくっちゃお♪**

助成額 34万4千円

◆地域での課題

【おうちで子育てしているママへ！】

コミュニティに参加する手段を知らないまま過ごしてしまっているママへ親子で揃って共有する時間、場所で音楽の本物の力を体感！また、絵本を通じて、絵本の題材のオリジナル楽器を親子で製作し、また音楽というツールで心のコミュニケーションを。児童館などの施設をあまり使ったことのないママもこれを機にママ友を作ったり施設の職員さんと顔見知りになったり、また、それを手助けする側の地域全体が見守る子育てのきっかけとなる一日を設けます。



迫力！打楽器コンサート

見たこともない大きい打楽器のコンサートとみんなの知ってる絵本とのコラボレーション。どんな音がするのかな？



◆基金事業概要と達成した成果

【区内7公演600名の親子へ音楽を！】

絵本の読み聞かせと音楽のコラボレーション。また絵本の中に出てくるオリジナル楽器を作り、その楽器と共に見る、聴く、触る、そして作るという項目を加え、五感に響く参加型コンサートを開催しました。

区内7公演全てで満員御礼キャンセル待ち状態で定員を超える700名の親子に音楽をお届けしました。また生協さんとの協働企画も定員を大幅に超える参加を頂きました。

楽器を作って絵本の世界へ！

絵本に出てくる楽器を作ろう。ママと一緒に世界で一つのオリジナル打楽器、かわいくできたね！



◆これからの取り組み

【さらに多くの子供たちに音楽を！】

子育て支援施設と同じ分野の他施設への広がりを持ち、各施設や団体の参加人数、規模を広げることを目指しています。親子目線で、現代求められている保育の中でのイベントの在り方を追求し、多くの後援、協力を得て、充実したコンサート内容を確認。また”団体力”の底上げのため、人材育成はもちろんの事、団体の特色を広く大田区へ周知する活動も広がっていきます。



本格打楽器体験！プロが演奏した楽器をみんなもさわってみよう。みんなも上手に鳴らせたね！

団体名 NPO 法人打楽器コンサートグループ・あしあと

会員数 11人 設立 平成25年4月

団体の活動目的 活動実績

「子供たちにもっと生の音楽を」をモットーに東京芸大卒の池野ひとみを中心に結成。コンサートに出掛けにくい方たち向けに（乳幼児、その保護者、障害者施設、高齢者施設、乳児院など）本格打楽器を出張し、参加型コンサートを開催する。ただ聴くだけでなく、見て、触って、一緒に合奏したりと、気軽に本格コンサートを体験してもらうためワンコインコンサート中心に活動。これまでにのべ500か所、5万人に音楽を届けてきた。

ざっくいのんびり円(エン)JOYしよう！！

事業名 JOY

助成額 39万8千円

◆地域での課題

生活困窮者世帯の貧困連鎖の防止のため、支援の必要な児童、若者に学校や家庭以外の「居場所」の提供が必要だと考えました。そして、「生きる力」を身に付けるため、「社会参加への準備支援」「自己肯定感・生きる力の醸成支援」を育む機会が作りにくい現状がありました。



◆基金事業概要と達成した成果

【宿泊学習実施】 修学旅行未経験者が70%でしたので、修学旅行のやり直しが出来ました。集団での生活を通して、お互いに思いやりの心を持つことができました。

【「食育」プログラムの充実】 朝ご飯を食べていない児童が78%もいました。みんなで一緒に食事を作ったり、食べることの楽しさを感じ、食への関心が芽生えました。

宿泊体験

連携している「社会福祉法人婦人の園」主催の夏祭りで、ハンドベルの演奏を行いました！一生懸命練習した成果もあり、大成功!!達成感を感じられました♪

◆これからの取り組み

今後も児童や若者が社会の中で、自分らしく生きられるように、自信につながる関わりを行います。良き理解者や協力者を社会の中に増やしていけるように働きかけを行います。JOYで経験を積み、社会に出て行ける状況も出てきました。今後も社会との接点を持てずにいる児童や若者にJOYの活動を知ってもらい、参加してもらえるように、広報も行っていきたいと思えます。



クリスマス会（食育）

12月22日、みんなとクリスマス会を行いました。皆で食べる食事はいつも楽しい～！今日は食事のマナーも勉強しました。

団体名 社会福祉法人 大洋社

会員数 20人 設立 平成28年4月

団体の活動目的
活動実績

【事業目的】地域の生活困窮者世帯の貧困連鎖防止のため、支援の必要な児童、若者に対して学校や家庭以外で安心して過ごせる場「居場所」の提供と生きる力を育むための自立支援活動を行う。
【活動実績】・演奏旅行参加者～
・「食育」プログラム～調理実施回数:38回、参加人数のべ277名(3/31現在)

「地域で愛されるカフェを目指して」

事業名 オレンジ茶房「縁（えにし）」（認知症カフェ）

助成額

3万8千円

◆地域での課題

認知症が大きな社会問題となる中、「認知症当事者またはその家族等が気軽に立ち寄れる場を提供する」という基本コンセプトのもと、原則毎月1回第4水曜日にカフェを開催している。

◆基金事業概要と達成した成果

参加対象者に特に制限はなく、老若男女誰でも参加可能。認知症当事者の方やそのご家族、関係者、または関心のある一般市民の方に参加して頂いている。毎回各種イベントを開催して、主に新井宿地域での宣伝活動に力を入れた。地域の民生委員との交流の場にもなっている。

◆これからの取り組み

今後の課題としては、①認知症当事者の方の参加をさらに増やしてゆきたい、②イベントの時間をなるべく抑えて、利用者様同士の交流を深める工夫をする、③地域の民生児童委員が参加し、新規参加者への周知に協力していただくこと等が考えられる。



*「ヘルマンハーブ演奏会」ヘルマンハーブのきれいな音色の演奏を参加者全員で堪能した。人気のイベントである。



*「お手玉教室」の様子。皆さん慣れた手つきでとても上手にお手玉を扱っていた。お手玉は瞬間的な判断が必要で、脳への活性化に役立ち、認知症の予防になると言われている。

団体名 オレンジ茶房「縁（えにし）」

会員数 12人

設立

平成29年5月

団体の活動目的
活動実績

認知症カフェの運営

いつもの暮らし しっかり防災

事業名 防災サロン — 知って、備えて、繋がって —

助成額 89万円

◆地域での課題

気候変動や地球温暖化の影響によって、想定外の自然災害がおきており、大田区内でも台風19号により、田園調布を中心に浸水被害が広がった。15万人の区民に避難指示、約1万人が避難したが、避難所に入れない区民、避難所内での情報不足、等様々な苦情がでている。防災対策に不安を感じ、力を入れて欲しいとの要望は5年連続で1位となっており、深刻な状況となっている。

◆基金事業概要と達成した成果

- ・誰もが参加しやすい防災サロンを企画し、家庭内・地域内における防災意識と知識の向上を図った。
- ・宿泊型避難所体験、救急救命講座を開催。
- ・ペットの飼い主向け防災サロンを開催
- ・災害時の食やトイレの講演会を開催。
- ・マンションでの防災サロン開催。
- ・大田フェスタ、おおた商い展にも参加。
- ・大田区主催の総合防災訓練に参加。
- ・携帯トイレの各家庭への普及活動貢献。

◆これからの取り組み

- ・避難所体験を中学生との協働で開催できる様に系統だてた上で、大田区内に広めていきたいと思う。
- ・メンバーの中で防災士の資格や救命救急の資格を持っている者が、講師として講演会を行い、参加費や謝礼がもらえるスキルを持った団体にしていきたい。
- ・商店街や他の団体との協働によって、新しい防災用品の提案や防災イベント開催を提案していきたい。



避難所体験・講演会

「第五回ドキドキ避難所体験」 「一番大事なトイレの話」

「イヌネコ飼い主さんの防災セミナー」



マンション防災サロン・商い展

「アルスの防災」「第三回防災バスツアー」

「おおた商い観光展」

団体名 特定非営利活動法人 CONNECT

会員数 11人 設立 平成26年4月

団体の活動目的
活動実績

「防災・減災」を切り口に、まずは自分の命を自分で守る為の知識を持ち、更に積極的に地域と関わっていく事によって、地域が繋がりを、防災力・地域力を高めていくことを目的としています。今年5月にはNPO法人となり、団体としての基礎力を強化し、避難所体験や救命救急講習会、食や災害時のトイレに関する講演会を企画、運営等の活動を継続させています。特に携帯トイレの普及活動には力を入れており、災害に強い地域づくりに貢献しています。

hana で友達 ♪ hana と友達 ♪

事業名 花でつながる未来の輪プロジェクト

助成額 87万2千円

◆地域での課題

hanatomo では、今まで季節ごとの子ども企画や親子企画を開催してきましたが、毎回募集人数の2~3倍の応募がありニーズにや年代に合った講座の少なさを実感しておりました。本来 hanatomo は伝統文化である華道を軸に活動しております。長い歴史と先師によって築かれた知識と技術の伝承や、草木によせる美しい心を育てる上質な環境を、地域の方々と共有したいと考えております。



◆基金事業概要と達成した成果

【令和元年度事業内容】

- ☆毎月1回地域花壇整備 ☆6月保育付き 多肉植物&アロマ ☆7月葉っぱでアート
- ☆7月~8月 わくわくスクール7講座
- ☆8月和紙の世界 華の世界 ☆11月 コスモス花摘み大会 ☆12月 保育付き 針葉樹でつくるクリスマスリース ☆12月 お正月しめ縄かざり
- ☆3月お花の幸せバスケット(中止) ☆3月アーティストと子ども達FLOWER ART(中止)

子ども達との交流

夏のわくわくスクールははじめ、様々な企画で子ども達への花を中心とする学びの場の提供をしています。地域花壇の整備では、満開になったコスモスを地域の方に開放し花摘み大会を開催しました。

◆これからの取り組み

今後の計画としては、今まで通り保育付き・子ども達対象・親子講座を企画していきますが、令和元年度チャレンジしたシルバー世代や障害者の方々との講座も反省点や改善点を見直し取り組んでいきたいと考えております。ただ、今年度はコロナの影響により企画の立て方は慎重に行なって参りたいと思います。



多様な企画

子育て世代へは、保育付き講座年2回開催いたしました。2講座共沢山の応募があり、保育付き講座の大切さを実感しております。どなたでもご参加可能な講座では、ホームのシルバー世代の方々や、障害者施設の方々も一緒に花に触れる時間を楽しみました。

団体名 hanatomo

会員数 17人

設立 平成24年10月

団体の活動目的 活動実績

伝統文化である華道を広めたいが、中々敷居が高く敬遠されるのが現状です。華道だけでなく、園芸、アレンジメントから、若い方にも人気の苔アートなど、楽しく華の道を体験し、まずは花を身近に感じる所から興味を持っていただく事で伝統文化の継承に繋げていく事を目的とする。
小学校での夏のわくわくスクール・誰でも参加の季節や行事を取り入れたワークショップ・地域花壇の充実を対象とする。問合せ・・・090-8306-4113/hanatomo.makoo@gmail.com 中谷真依子

うのき水辺の楽校・多摩川はおもしろい！

事業名 多摩川の自然と遊ぼう！自然から学ぼう！

助成額 67万8千円

◆地域での課題

身近な多摩川は多くの人々の願いや関係機関の努力により水質が改善され、多くの生き物・自然が戻ってきた。しかし、昔川で遊んでいたところの経験が途切れてしまい、子供たちが安全に川で遊ぶことが難しくなった。安全に川で遊ぶことの楽しさや水辺の動植物に対する関心を高め、学ぶ場づくりを、多摩川の水辺に住む区民の「地域力」を活かし、継続的に取り組む必要がある。

◆基金事業概要と達成した成果

- ①今年度は7回の多摩川でのガサガサ体験・生き物調べ、野鳥観察会を実施した。多摩川の魅力的な自然と触れ合い盛況であった。延べ参加者は、小学生259名、中学生17名、保護者等の大人183名で、スタッフを合わせると合計550名であった。今年度は、申込数350名の第4回小学1.2年生のガサガサ体験が雨天で、第7回ガサガサと丸子の渡し祭りが台風19号の影響で中止になった。「普段できない事が、子供と一緒に体験できてよかった」「地域でこのような良い環境があることをうれしく思う」との声が寄せられている。
- ②鶉の木地区各町会・青少対、各小中学校のポスター掲示やチラシ配布などの協力があり、区内の地域へ広がりつつある。学校別の参加者は昨年度区内15校、今年度は18校になり、区外や川崎市からの参加もあった。
- ③活動を支える地域のボランティアが増え、子供スタッフ、中学生ボランティアの活躍が頼もしくなり、子供スタッフ育成プログラムの試行も始めた。
- ④昨年発行した『多摩川生き物図鑑』の活用方法の研究と『多摩川の野鳥①水辺の鳥』を制作している。
- ⑤区内の小中学校の授業支援として、嶺町小学校の他に南六郷小学校でも実施した。

◆これからの取り組み

- ①中・下流域の「水辺の楽校」で生き物調べを行い、子供同士の交流を図る。
- ②継続的運営のために、事務局メンバーを広く募り、子供スタッフの育成プログラムを進める。
- ③『多摩川生き物図鑑』の活用を始め、地域に密着した生き物の資料・教材を開発する。
- ④財政基盤を確立するため、地域の企業・個人などからの協賛金等の募集を検討する。



「春の野鳥観察」4月27日(土)

今年の春は短く、種類は多くみられませんが、耳を澄ますと木々に隠れている鳥たちの鳴き声が聞こえ、時々姿を見せてくれました。



「ガサガサ体験・生き物調べ」

5月18日(土)、8月4日(日)

たくさんの親子が参加しました。自分で採集した生き物を『多摩川生き物図鑑』を使って調べました。子どもスタッフのメンバーが優しく見分け方を教えてくれました。



「多摩川・河川敷での昆虫観察会」9月21日(土)

前日より10℃も気温が下がったので、昆虫の動きがゆっくりで、小さな子供でも虫をつかまえることができました。講師のえのきんさんの魅力的なお話にみんな聞き入っていました。

団体名 うのき水辺の楽校協議会

会員数 27人

設立 平成25年8月

団体の活動目的
活動実績

大田区鶉の木地区の多摩川沿岸で活動している団体と町会、大田区関係機関、国交省などの河川管理者が連携し、子供たちの自然体験や交流を通して、多摩川における良好な水辺環境づくりや自主的・主体的な環境教育を行うことを目的としている。具体的には、生き物調査（ガサガサ体験）、野鳥・昆虫観察などの体験活動を安全面に留意しながら行っている。

茶道から広がる日本文化

事業名	茶道から広がる日本文化を体験しよう	助成額	125万円
------------	-------------------	------------	-------

◆地域での課題

気軽に茶道を楽しむために定期的な会場確保ができない。コストがかかる。

◆基金事業概要と達成した成果

【概要】

- ① 子どもの居場所作り。また、想いやりの心と物を大切に
する心を育成する。
⇒夏のわくわくスクール区内延べ9校実施
- ② 空き家の有効利用
⇒大田区中央の空き茶室利用で茶道体験実施
- ③ 国際交流事業の集客、告知拡散方法
⇒東京工業大学国際交流事務局との連携
- ④ 高齢者のニーズにあわせた企画
⇒区内で活動している馬込文士村ガイドの会、龍子記念館とのコラボ企画、区内で活躍中の絵手紙講師とのコラボ企画
- ⑤ 和菓子離れの傾向を少しでも阻止する。
⇒和菓子屋清野とコラボし、自作の和菓子でお抹茶をいただく企画を海外の方に向けても企画した。

助成制度のおかげでコストがかかるというイメージの茶道をできるだけ低くするためのイベントを開催し、茶道をより多くの方に体験して頂くことができ、また、日本文化の広がりを感じて頂くことができたと思う。

◆これからの取り組み

平成30年度、31年度とステップアップ助成を受けて活動させて頂き、様々なチャレンジを試みる事ができた。おかげさまで多くの団体や人とのつながりをいただいた。今後の取り組みとしては、このつながりを大切にしながら、チャレンジから経験できたことを精査し、継続できる事業は継続を、難しい事業は他の可能性を探りながら活動していく。



【海外の方に向けた茶道体験】
東工大の留学生や、区内在住の外国人に茶道体験の機会を届けることができた。



【空き家活用・和菓子作り茶会・浴衣の着付け】
空き家対策、自作の和菓子でお抹茶を！浴衣の着付け体験など、茶道から様々広がり、つながる企画ができた。3月までまだまだ盛りだくさんです。

団体名	NPO 法人茶道キャラバン喫茶去		
会員数	14人	設立	平成29年10月
団体の活動目的 活動実績	≪活動目的≫ この会は、茶道を体験することで、心安らぐ時間を共有し、物を大切に扱う心や、人を思いやる心の育成を図る。茶道の多面性を活かし、地域社会の文化および福祉の発展、社会教育の推進、子どもの健全育成、高齢者の健康維持などの公益増進に寄与することを目的とする。 ≪活動実績≫H31年度 わくわくスクール9校、茶会開催3回、地域、他団体とのコラボ企画2回、他		

おおたの魅力を子どもたちに、そして世界の人へ

事業名 2020 オリンピック・パラリンピックへGo！
おおたの魅力PRプロジェクト

助成額 50万円

◆ “ふるさとづくり” を応援

2020年オリンピック・パラリンピックイヤーをきっかけに、大田区の自然の魅力を訪日する外国人向けに発信。この活動を通じて、大田区の“世界に誇れる自然”を多くの区民に知ってもらい、子どもたちにも“ふるさとの自然”を誇りに思ってもらいたいという願いを活動に。

◆ “干潟の魅力” を区民に発信

多摩川大師橋干潟と世界自然遺産候補・沖縄県西表島の干潟の生きものを対比したパンフレットを制作。改めて大田区の自然の豊かさを知ってもらうとともに、その自然をどのように守ってきたのかがまとめられています。現在、小学校の干潟での体験学習にも教材として活用。また、干潟の生きものたちの動画を撮影し、資料づくり、貸出準備をすすめています。

◆ “点から面へ” と交流促進

「多摩川大師橋干潟の生きものたち」を使って、多摩川河口域での自然観察、体験授業を支援し、より多くの区民のみなさんに大田区の自然の豊かさを知ってもらい、これからもいっしょに守っていきます。また、2020年をきっかけにはじまった世界自然遺産候補地・西表島との自然体験交流事業を展開していきます。



パンフレット「多摩川大師橋干潟の生きものたち」

大師橋干潟の生きものと沖縄県西表島の干潟の生きものを対比して、似ている、似ていない、その自然の豊かさをわかりやすく掲載。また、英文で大師橋干潟の紹介もしています(羽田水辺の楽校で配布しています)。



自然体験やセミナーの開催

子どもたちの体験授業支援や日曜日の自然観察会や保全活動を応援。西表島との交流セミナーなどを開催しています(多摩川とびはぜ倶楽部と連携しています)。

団体名 一般社団法人 地域パートナーシップ支援センター

会員数 6人 **設立** 平成15年10月

**団体の活動目的
活動実績**

市民・事業者・行政相互の連携協働による地域、環境、防災、まちづくりなどを企画し、運営から人材育成、団体設立までトータルに支援しています。これまでに協働支援施設の運営、干潟の保全、カブトムシのすむ森づくり、観光まちづくりなどを実施。岩手県、沖縄県など地方都市との交流事業も積極的に手掛けています。

人づくり・仲間づくり・まちづくり

事業名

生涯学習社会構築のための出前講座「地域おしゃべり会」
元気高齢者に地域参加を促す「アクティブシニアの集い」

助成額

48万5千円

◆地域での課題

大田区政の推進エンジンは「地域力」です。少子高齢化と人手不足等で町会・自治会等の加入率も低下している。地域活動を下支えしていただいていた「お母さん」達も働きに出て「地域力」の低下が目立っています。これの改善には①地域コミュニティ改善、②地域資源の開拓です。①については住民同士の話し合い・つながりづくり。②については、元気高齢者の地域参加で改善を図っていきます。

「第2回アクティブシニア交流会」は25団体の出展者の自己紹介からスタートしました。



早稲田大久保教授の講演「まちとの付き合い方」

◆基金事業概要と達成した成果

大田区内各地域を巡回して出前「地域おしゃべり講座」を開催しています。今年度は大森西(8/31)、久が原(12/7)開催。羽田(2/15)開催しました。

元気高齢者の地域参加促進事業は第2回をアプリコで10月14日に200余名の参加者を集めて開催しました。

地域おしゃべり講座は4年目になりますが18地区全部は回れておりません。元気高齢者の地域活動参加促進事業はまだ2回しか開催していないので特記する成果はまだ出てませんが。超高齢化社会の中で山積する地域課題解決のために重要な事業です。



大森西地区 出前「地域おしゃべり会」風景(4名の講師)



◆これからの取り組み

上記2つの課題はこれからの超高齢化社会の中では重要な課題であると考えていますが、なかなか成果の見えない課題で評価も低いですが。取り組む価値はあると考えています。大田区の助成金は終わりましたが新たなスポンサーを見つけ実施していきたいと考えています。これらの課題に取り組んでいる団体も多いので、区にも積極的に参加していただき協働して取り組みをすすめ、住みやすい大田区にしていきたいと思ひます。

久が原地区 出前 地域おしゃべり講座



団体名

おおた生涯学習世話人会

会員数

25人

設立

平成25年5月

団体の活動目的
活動実績

この会は、考え方の違いや思いの違いを認め合い、生涯学習の意味を理解し、生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現を目指し、大田区に生涯学習社会を振興していくことを目的とする。

子どもだけでなく、先生も喜ぶキャリア教育

事業名 「子どもの未来を創る『キャリア教育』」

助成額 47万5千円

◆地域での課題

現状では、小学校でのキャリア教育への取り組みが浅く、子ども達に多くの選択肢を与えることができていない現状・課題があります。

「学校も親も教えてくれない、教えることができないことを、現場で活躍するその仕事のプロが教える」それが我々の考えるキャリア教育です。



◆基金事業概要と達成した成果

小学校の担当教員と当団体で綿密な事前打ち合わせをし、子ども達の興味のある仕事、学校側が触れて欲しいと考える仕事をうかがい、厳選したゲストティーチャーをサポートチームとともに派遣します。

開催した全ての学校から、「話を聞く子どもたちの表情がいつもと違う」「来年度もぜひ開催してほしい」と評価いただいています。

「プロスポーツトレーナーとチアリーダー」
どちらのゲストティーチャーも、某プロ野球チームで活躍していたプロ。子どもたち先生どちらも目を輝かせながら聞いています。

◆これからの取り組み

本年度は、新型コロナウイルスの影響により学校も休校期間が長期化し、様々な学校のイベントも中止や延期になっている現状を踏まえ、学校との継続的な連絡を取りながら必要な学校にキャリア教育事業を提供していく方向で検討しております。



「バラエティーのあるゲストティーチャー陣」
左から、司法書士、漫画家、声の仕事（ナレーター、司会など）税理士、弁護士。

団体名 一般社団法人 おおた助っ人

会員数 8人 設立 平成22年11月

団体の活動目的・活動実績

「大田区は大田区の専門家が笑顔(≥▽≤)にする！」を旗印に、大田区に縁のある多数の専門家が集まり、大田区及びその周辺地区の個人・団体・企業と連携のもと、専門家ならではの方法で地域力向上を図る。大人には無料相談会を2か月に一度開催し、子どもには公立小学校でサマースクール、授業の時間を通じて未来を広げる活動を実施。またこれらの活動の担い手となる専門家の育成(スキルアップ・交流)のための勉強会を、2か月に一度(40名～50名参加)開催している。

みんなで心をひとつにした安全安心な街づくり

事業名

安全で安心な街づくりと平和で安全な「ふるさと」づくり活動

助成額

68万円

◆地域での課題

池上地区は、振り込め詐欺空き巣、ひったくり等の事件が多く発生しており、これらの事件等の防止を図り、地域住民の防犯意識の醸成を目指すとともに、歴史ある池上本門寺の内懐に抱かれた池上の街が子供達に「ふるさと」としての誇りを持てるように活動をして行く。

◆基金事業概要と達成した成果

- ・毎週3回のパトロール活動(月1回の町会・毎週1回の地元企業との合同パトロール)
- ・子供達の健全育成活動の一環としての「池上安全安心まちづくり活動」
- ・通学時の安全見守り活動とあいさつ励行運動(月～金)
- ・子供防犯教室の開催(児童館等)
- ・環境浄化活動(街の清掃活動)
- ・歴史探訪(七福神めぐり等)
- ・年末の犯罪防止と子供の健全育成餅つき大会など

◆これからの取り組み

池上が安全で平和な街であるように、各団体や住民の皆さんと協力して防犯パトロール活動を中心に活動し、かつ住民の防犯意識の醸成に務めると共に子供達の生まれ育った池上本門寺に抱かれた池上の街が、いつまでも「ふるさと」とであるとの誇りを持てる街になるような活動を行っていく。



池上安全安心まちづくり展

小中学生の標語、作文等の展示及表彰式を実施し地域の方々の防犯意識の醸成と子供達の安全意识向上を計る



犯罪防止と子供達の健全育成餅つき大会

地域住民との絆の醸成と子供達の健全育成を図る

団体名

PSI 池上自主防犯パトロール隊

会員数

60人

設立

平成15年7月

団体の活動目的
活動実績

【活動目的】池上地区は、振り込め詐欺やひったくり等の事件のが多く発生しており、これらの事件等の防止を図るとともに歴史ある「池上本門寺の内懐に抱かれた池上の街」が子供達に「ふるさと」としての誇りを持てるような安全で安心な街づくり活動を目的としている。

【活動実績】・週3回の防犯パトロール活動(地元企業・町会と協力しての防犯パトロールも実施)

・安全安心まちづくり展 ・安全安心餅つき大会 ・子供達への各種防犯教室 ・子供の通学時の安全見守り活動(月～金) ・街の環境浄化活動 ・警察署、防犯協会、町会、商店会、地元企業との協力による各種防犯活動の実施

健康づくり、仲間づくり、生きがいづくり!

事業名 区民と区民活動をつなげる「OTA 健康スタンプラリー」波及事業

助成額 196万9千円

◆地域での課題

生活習慣病が多くなっている現在、運動習慣のある人を増やし、体の状態を確認する健康診断受診率を改善することが求められています。こうした課題を克服するには、区民一人ひとりの主体的な健康づくりを促す環境を整備するとともに、民間団体や企業等と連携した地域全体の健康づくりを促進することが必要です。



◆基金事業概要と達成した成果

健康パスポートを利用し、多様な区内イベントに「出かける」ことを通して、健康維持増進に対する関心を喚起。またひとりでも多くの区民に、区民活動団体の活動に参加することにつなげ、日常的な運動場面の確保や社会参画の機会の提供など区民一人ひとりの「健康な生活」を充実化する実践活動を行いました。

健康スタンプラリー「健康講座」4回実施

国民一人一人が健康維持に対して関心を向け、ロコモティブシンドロームを予防するための運動習慣の推進や、肥満予防が健康寿命を延ばすこと等を学びました。

◆これからの取り組み

引き続き、出かけるための「きっかけツール」である「OTA 健康パスポート」を配布し、各団体イベントの参加者を増やすとともに、健康意識アンケートを行い、イベント参加による健診受信への意識向上に取り組みます。



体力測定と内臓脂肪測定

OTAユニバーサルスポーツフェスタ（12月8日）では、イキイキ健康コーナーを特設し、内臓脂肪測定や健診につなぐ企画を行い、健診受診への意識向上を図りました。



団体名 (一社)日本社会連帯機構

会員数 6700人 設立 平成22年10月

団体の活動目的・活動実績

非営利・協同のネットワークを広げるためにつくられた組織。仕事おこしを通して、失業問題や地域の課題を解決する取り組みを行っている。2010年に羽田の歴史を地域の人たちと語り合う「高齢者の主張大会」「豊かな高齢期を考えるシンポジウム」、2017年秋に地域の居場所づくりを目指す協同集会などを開催。現在、大田地域の文化の継承、中小企業のよさ、価値の再確認を目指して「名人達人サミット in おおた」を計画中。

みま～も式 まちなか健康プロジェクト

事業名

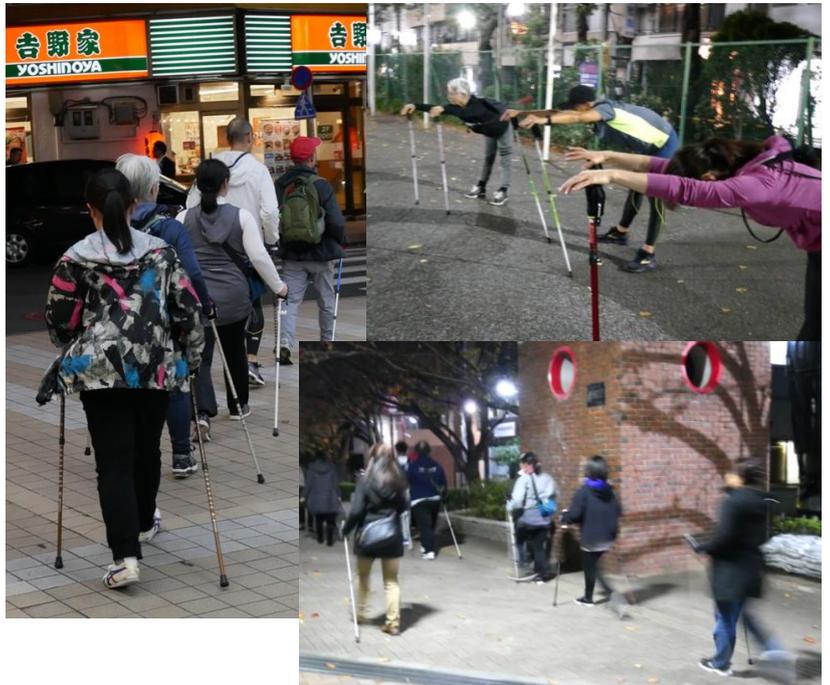
健康行動を生活に取り入れた生活習慣獲得に繋がる地域づくり

助成額

218万円

◆地域での課題

住民の健康づくりを考えた場合、若年層・現役世代における健康意識の低さが課題となっている。忙しい、自覚症状がない、何となくなどの理由で自信の健康が後回しになっている人たちが、自分なりの「健康行動」を生活に取り入れ、習慣化できるようになるが重要である。



◆基金事業概要と達成した成果

仕事・家庭・子育てに支障をきたさない時間帯とボリュームで継続でき健康につながるコンテンツ提供。→*ヘルシープレートダイエット、ポールウォーク、ボクササイズ、適正な酒の呑み方体験、調理実習、健康な外食・弁当のすすめ、バスケットボール（2～3月開催予定含む）*セミナー開催（禁煙、高血圧、血管、セカンドライフ）*街中に5ヶ所の体組成、血圧測定可能な測定スポットの設置*地元企業を個別訪問し普及啓発。

ミニプログラム例1 ポールウォークdeトレーニング

毎週水曜日 19:00～20:00

仕事帰りの男女、育て中の主婦、高齢者が毎回10人前後でトレーナーの指導の下約3kmをウォーキング。

◆これからの取り組み

この間の事業を通して、隙間時間を活用したコンテンツを提供してきたが、その時間も作る事が困難、意識付けがされない人たちが多い事。また出張でのコンテンツに対するニーズが高い事が見えてきた。そこで時間に余裕のない人たちが一人でも多く健康を意識できる機会に触れられるよう、今後は出張・訪問に更に力を入れた取り組みをしていきたい。



ミニプログラム例2 ヘルシープレートダイエット

職場に管理栄養士が訪問、職場の仲間と一緒に励まし合いながら3ヶ月間のダイエットに励みます。

団体名

おおた高齢者見守りネットワーク

会員数

87社

設立

平成20年4月

団体の活動目的
活動実績

医療・保健・福祉分野の専門職、民間企業が協賛として参加し、地域の高齢者の安心・健康をテーマに活動している。地域づくりセミナーは、毎回約120名が参加。みま～もステーション事業は、年間430講座を開催。2017年からは、全世代対象とし活動を拡大してきた。

花とみどりは、世界を救う♪

事業名 花とみどりで心と身体健康づくり

助成額 11万円

◆地域での課題

花やみどりが好き、という、単に趣味としてのガーデニングを思い浮かべられることと思います。でも実は、花やみどりを愛でることや、ガーデニング活動によって、心も身体も健康で居られることを、社会の価値としてもっと認知してもらい、定着させたい、と考えました。

◆事業概要と達成した成果

花やみどりを眺めながらまちを歩くことで、心癒されながら健康になる「花とみどりのまち歩き」と、そのための「さんぽマップ」づくり、加えて、ガーデニング活動を通して花仲間ができ、心も身体も元気になれる「コミュニティガーデン講座」の開催。コミュニティガーデン講座では、とてもきれいな花壇ができ、散歩の際に遠回りをするようになった、という声が上がっています。

◆これからの取り組み

初年度の活動として、計画通りに進まなかったことがありながらも、はじめの一步を踏み出しました。

花とみどりに触れるまち歩きと、コミュニティガーデン活動からの、心と身体健康づくり。まずはモデル地区として、池上地域で小さく始めてみましたが、徐々に賛同くださる方とともに、ゆっくりとひろげてゆけたら、と思います。



コミュニティガーデン講座…2019年10月スタート。地域の自治会の皆さんも参加して、学びながらのガーデンづくりです。



花とみどりのまち歩き…2019年12月実施、2020年3月にも実施予定。池上駅からスタートして、まちなかの花やみどりを愛でながら、まちを歩きます。

団体名	NPO 法人 大田・花とみどりのまちづくり		
会員数	132人	設立	平成13年12月
団体の活動目的 活動実績	地域社会に対し、花壇の植栽・樹木の植樹・剪定等のボランティア活動を通じ、緑の保護・緑化の推進及び緑の普及啓発を行い、もって豊かさや潤いのあるまちづくりに寄与することを目的として、活動を続けています。駅前花壇の維持管理、区内緑地の管理、区民農園の管理運営、各種イベントへの出展による普及啓発活動等を行っています。		



地域力応援基金へのご寄付のお願い



様々な地域の課題解決のために活かされています！



地域力応援基金は、区民や事業者の皆様からの寄付金を積立て、区内で活動するボランティア団体やNPO、地縁団体等が実施する公益的な事業を支える新しい基金です。

1 寄付金の活用

地域力応援基金へのご寄付は、「地域力応援基金助成事業」として大田区の財産となるべき地域力の発掘・活性化をすすめるために活用させていただいております。基金を活用して実施した事業は区ホームページで公開しております。是非ご覧ください。

2 寄付の方法

(寄付される場合には以下の3つの方法があります)

(1) 納付書によりお近くの金融機関で振り込む

➡ 寄付申込書を下記送付先まで送付してください。後日納付書をお送りしますので金融機関窓口でお振込みください。なお、手数料はかかりません。

(2) 現金書留で郵送する

➡ 寄付申込書を同封の上、下記送付先まで送付してください。郵送料等は恐縮ですが、お客様でご負担ください。

(3) 直接現金をお持ちいただく

➡ 大田区役所6階地域力推進課にお越しください。寄付申込書はその場でご記入いただきます。

3 寄付申込書の入手方法

寄付をされる場合には寄付申込書が必要です。寄付申込書が必要な方は、大田区HPからプリントアウトするか、下記問合せ先までご連絡ください。後日郵送でお送りします。

4 寄付の流れ

(※上記2寄付の方法(1)の例)



- ① 寄付申込書の提出 (郵送でも FAX でも構いません)
- ② 納付書の送付 (到着後、金融機関で振込)
- ③ 振込確認後、受領書・礼状を送付いたします。
- ④ 区報掲載 (掲載月は不定期です。ご了承ください。)



令和元年度 地域力応援基金助成事業活動報告書

発行年月：令和2年6月

発行：大田区地域力推進部地域力推進課

区民協働・生涯学習担当

〒144-8621 大田区蒲田五丁目 13 番 14 号

TEL:03-5744-1204 FAX:03-5744-1518